

第7回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年11月12日（木） 午後1時30分～午後4時45分

場 所：市役所西別館3階会議室

【出席委員】

堀内委員、川口委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、勢古委員、向井委員、
上路委員、片山委員（順不同）

【欠席委員】

関委員、丹羽委員

【事務局】

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、篠原主事、小林主事
図書館：道前係長

<会議次第1. 前回委員会の内容確認>

設計者より、資料1に基づき前回会議の打合せ内容を確認

質疑・意見特になし。

<会議次第2. 平面計画修正案の説明>

設計者より、資料2-1及び資料2-2に基づき平面計画修正案の説明

事務局より、熊野学棟の展示計画素案を説明

【事務局】

展示計画素案は基本計画等の内容をベースにして計画した。常設展示は展示コーナー2、
企画展示は展示コーナー1と研修室兼企画展示を想定している。

【委員】

写真やパネルを中心とした展示が多くなると思われる。今後は管理運営計画の中で詰めていくことになる。

【委員】

熊野ひろばから熊野学アーカイブへの音の影響はないのか。

【設計者】

検討中である。ガラス手摺を設置し、天井に吸音材を貼る程度で問題ないという専門家

の意見もある。

【委員】

熊野ひろば（屋外）の横に機械室が設置されているが、奥に配置したほうが良いのではないか。

【設計者】

熊野学棟東側に民家が建っているので、プライバシーに配慮して壁を設け機械室として
いる。機械室は1階のみなので、2階は新宮城跡への視界が抜けている。

【設計者】

熊野学棟と図書館棟をつなぐ敷地北側のテラスは、行政協議の結果中止することとなった。

【委員】

テラスがなくなったことにより、施設全体の回遊性がなくなったように思われる。

【設計者】

熊野学アーカイブは貴重な資料を保管しているので、元々直接外には出られない計画で、
避難経路としてテラスを利用する想定だった。図書館棟のテラスは熊野川に開いており、
テラスで本を読むことができる。立体駐車場から図書館棟テラスにつながる渡り廊下を設
置しており、施設全体の回遊性には配慮している。

【委員】

図書館棟と熊野学棟をつないでいる渡り廊下の位置は適切なのか。

【設計者】

図書館のカウンターから熊野学アーカイブを見通せるような位置としている。今のよう
に中央に渡り廊下を配置したほうが利用者にとっても使いやすい。

【委員】

熊野学棟1階に展示準備室はいらないのか。

【設計者】

研修室兼企画展示を小さくして展示準備室を設けるか、今のプランのように展示パネル
で研修室兼企画展示を仕切って準備スペースを確保するかのどちらかが考えられる。管理
運営と合わせて検討する。

【委員】

研修室兼企画展示の南側に展示準備室を設けられないか。

【設計者】

2階の面積も増えることになるので難しい。

【委員】

一般収蔵へ資料搬入するために、作業室の外部側に庇が必要である。

【設計者】

前回の基本設計等検討委員会で図書館の面積が多いのではないかという意見があったが、
図書館棟1階はほとんどが共用部なので、図書館面積が他と比べて大きいわけではない。

【委員長】

予算が48億円と決まっているので、延床面積はできるだけコンパクトにする必要がある。延床面積8,000㎡の枠の中で各委員の意見を集約していきたい。

【委員】

図書館2階にカフェコーナーがあるが、図書館内ではできるだけ火や水を使いたくないので、自動販売機を設置する程度で良いのではないかな。

【設計者】

カフェの設置について、管理運営計画の中で議論したい。

【委員】

図書館棟2階のトイレについて、中央ではなく端に寄せても良いのではないかな。

【委員】

自動貸出機がカウンター前に設置されているが、BDS（ブック・ディテクション・システム）の隣が良いのではないかな。自動貸出機の利用者のうち、4～5割程度が児童書の貸出で利用している。

【設計者】

自動貸出機が導入された初期の頃は利用者が慣れておらず、自動貸出機が奥にあると使いにくいので、カウンター付近に設置している。児童書の利用が多いのであれば、児童用の自動貸出機を設置する方法もある。自動貸出機は備品なので、位置は後から変更できる。

【委員】

エレベーターと小荷物昇降機の比較検討がなされているが、エレベーターの設置が難しい場合はらせん階段を設置してほしい。

【設計者】

エレベーターやらせん階段の設置については、実施設計で検討したい。

【委員】

図書館棟1階南東部のカフェが会議室に変更になっているが、景観上良くないのではないかな。

【設計者】

ガラス張りのオープンな会議室にすることも可能。カフェの位置は決定していないので、カフェを1階に戻すこともありうる。

【委員】

立体駐車場と図書館棟の渡り廊下を設置することで、市民の日常的な活動エリアが狭くなるのではないかな。

【設計者】

渡り廊下で立体駐車場と図書館棟をつなげることで、北側テラスのにぎわいを創出できると考える。

<会議次第 3. ホール棟についての意見交換>

設計者より、資料 2-1 及び資料 2-2 に基づき平面計画修正案の説明

【設計者】

大ホールの席数は、固定席 1,012 席で立見込 1,120 席となっている。下手側に花道を設置している。花道は固定式だが、幅を広げる場合は椅子を取り外す必要がある。

【委員長】

立見席は法的に席数にカウントできるのか。

【設計者】

カウントできる。消防法上も 1,120 席として届け出る必要がある。立見席は 5 席/m²で算定している。

【委員】

席数が増えると建設費は高くなるのか。

【委員長】

面積が増えるので高くなる。客席だけでなく、機械室やトイレ、ホワイエなどの面積も大きくなるので影響は大きい。

【委員】

今後人口は減っていくが、客席数は現状（1,010 席）以上としたい。

【委員】

この地域の中心になって欲しかったので、最初は 1,200 席を希望していたが、人口減となっていくことを考えると 1,012 席（立見込 1,120 席）で十分だと思う。

【委員】

既存市民会館の建った昭和 41 年から人口が 1 万人減っている中で、1,000 席必要なのかという疑問は感じている。固定席を減らして立見席を増やす方法もあるのではないかと。

【委員】

高齢者が多い新宮市で立見席が受け入れられるのかという心配はある。

【委員】

新宮市の周辺には大きなホールがないので、新宮市の人口減だけを考慮して席数を決定すべきではない。

【委員】

1,012 席（立見込 1,120 席）を進めて、概算工事費が 48 億円をオーバーした場合に、席数の見直しをすればよいのではないかと。

【委員長】

予算 48 億円、面積 8,000～10,000 m²は絶対条件である。席数を減らすと工事費への影響は大きいのか。

【設計者】

工事費への影響は大きい。もし 800 席まで減らせれば 3 階バルコニー席をなくすことができるので、コストメリットは大きい。ただ、周辺に大きなホールがないという特殊事情を考慮すると、1,000 席は必要かもしれない。800 席でも 1,000 席でもチケット代だけではまかなえないので、行政の補助は必要となる。

【委員】

概算工事費が予算をオーバーした場合に、席数を減らす前提で話を進めないで欲しい。熊野学棟や図書館棟も含めてどこを減らすか検討すべきである。

【委員長】

予算 48 億円を守る必要はあるが、席数以外にも工事費を減らす要因があるので、総合的に判断すること。

【委員長】

基本設計等検討委員会としては、固定席 1,012 席（立見込 1,120 席）で承認したい。

【委員長】

ホールの残響時間はどうなっているのか。

【設計者】

満席時でコンサートは 1.6 秒、講演は 1.2 秒の想定である。

【委員】

車いす利用者の緊急時の避難はどうなっているのか。

【設計者】

他の利用者とは別のルートを確保している。

【委員】

スタジオは学生も使うと思われるが、人目につかない位置にあるので不安である。

【設計者】

窓を設けて死角をなくすようにしている。

【委員】

親子観覧席は不要か。

【設計者】

ワークショップで、託児サービスと合わせて考える議論の中で親子室不要の意見があった。

【委員】

個人的には不要だと思うが、基本計画の協議の中では子育て中の委員から親子室設置の要望が出ていた。

【委員長】

大ホールを小規模利用する提案があったが、具体的にどう小規模利用できるのか。

【設計者】

一般的に 300～400 席程度の利用が多いため、大ホールは稼働率が低く、小ホールは稼働率が高くなる傾向がある。小ホールのほうが展示スペースとして使いやすいことを考えると、音楽と演劇は大ホール、展示は小ホールを利用するのが良いと考える。小ホールでピアノの発表会等を行うことは可能。

【委員長】

大ホールの稼働率が 50%を超えているところはほとんどない。今は利用料金が安いですが、新しい文化ホールでも持続的に機能させることが重要である。

【委員長】

中通路前の席数はいくつか。

【設計者】

338 席。床吹出空調とし、照明のエリア分で小規模利用に対応できる。小規模利用した際に席の空きが目立つと寂しい感じがするので、スクリーンや壁を使って囲われ感を出したい。

【設計者】

小ホールは平土間とし、レセプション、展示、講演会等で使える。小ホール付近に水廻りはないが、図書館棟の多目的ギャラリーに流しがある。

【委員長】

レセプションを行うのであれば、小ホールは上質な空間とすべきである。

【設計者】

ホテルの宴会場のように華美ではないが、上質な空間としたい。仕上げは検討中である。小ホールはピアノ演奏はできるが、太鼓を使うと大ホールまで音が響く。小ホールの設備グレードを上げると建設費への影響が大きいため、運用でうまく調整してほしい。

【委員】

ホワイエ・多目的ギャラリーでイベントを行っている場合は、ホールの入口はどうするのか。

【設計者】

大ホールと小ホールを同時に興行では使わない前提で、ホワイエの面積を縮小している。市民利用なら大ホールと小ホールを同時に使っても問題ない。

【委員】

ホールの入口が奥まわっていてわかりにくいので、もう一か所入口を追加してはどうか。

【委員長】

ホールの入口について、設計者のほうで検討すること。

【委員】

小ホールの椅子や舞台はどこに収納するのか。

【設計者】

備品庫である。詳細は今後検討する。

【委員】

ホールの床レベルがよくわからないので説明してほしい。

【設計者】

ホワイエ、舞台、中通路の床は同じ高さである。建物全体は浸水対策として地盤面より50cm高くする。

【委員】

建物を高くするという事は、外部にスロープができるのか。

【設計者】

水勾配程度は必要となるが、急なスロープではない。

【委員長】

海が近いので塩害に注意すること。

<会議次第4. 市民ワークショップについて>

【設計者】

第7回市民ワークショップは議論というより確認作業を行う。関心のあるものでグループ分けをする予定である。

【委員長】

最後はどう締めくくるのか。

【設計者】

管理運営のことなど、すでに決まっているスケジュールについて説明する。ステップ6・7は参加者が自由に発言できるので、管理運営に関する意見も出るかもしれない。

【委員長】

ワークショップを行った効果を参加者に伝えること。

【委員長】

提言書の素案を作成し、各委員に事前配布する。各委員がチェックし、修正した提言書を次の委員会までに配布する。

<会議次第5. その他>

【事務局】

次回の基本設計等検討委員会は12月22日（火）に行う。